

# 臨床と生政治

## 〈医〉の社会学

(青土社 | 2024年10月刊行 税込 ¥3,740)

美馬達哉先生 × 塚原東吾先生

立命館大学大学院  
先端総合学術研究科教授

神戸大学大学院  
国際文化研究科教授

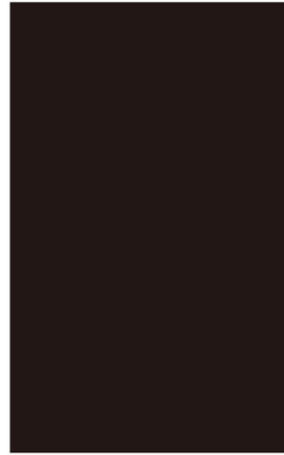
現場から浮かびあがる“医”の思想史。

医療の専門職化の過程は反精神医学の歴史といかに結びつくのか。ゲノム編集ツール・CRISPR-Cas9は何をもたらしているのか。ニューロダイバーシティの思想と医療・ケアをめぐるジレンマとは。職場のストレスチェックとセルフケアの関係とは何か。

臨床のあり方を問い直し、生政治の現在地をみつめる16講。

〈医〉の  
社会学

美馬達哉



青土社

臨床と生政治

12.11 水

16:30~17:30

※延長の場合あり(最大 18:00) / 途中入退出可

会場：ブックセンターふらっと

【組合員企画】参加無料・申込不要 \ 当日会場へお越しください /



美馬 達哉 (みま たつや)

1966年大阪生まれ。京都大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。現在、立命館大学大学院先端総合学術研究科教授。専門は医療社会学、脳科学。著書に『リスク化される身体—現代医療学と統治のテクノロジー』（青土社）、『〈病〉のスペクタクル—生権力の政治学』『脳のエシックス—脳神経倫理学入門』『感染症社会—アフターコロナの生政治』（人文書院）、『生を治める術としての近代医療—フーコー『監獄の誕生』を読み直す』（現代書館）などがある。



塚原 東吾 (つかはら とうご)

1961年東京生まれ、城北高校、東京学芸大学卒、同（化学）修士修了、オランダ国費留学生、ライデン大学医学部博士号取得、ケンブリッジ大学・ニーダム研究所にてフェロー、東海大学文学部講師・助教授、神戸大学国際文化学部准教授、などを経て神戸大学大学院国際文化研究科教授。著書に『よくわかる現代科学技術史・STS』（ミネルヴァ書房）、『帝国日本の科学思想史』（勁草書房）、『科学機器の歴史：望遠鏡と顕微鏡』（日本評論社）などがある。